

主日聖体礼儀

単音聖歌譜



司祭祈禱

注意 譜面中、五線譜上に ||o|| とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈禱文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、気をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2016年 2月25日 作成
2023年 1月16日 一部改訂
釧路ハリストス正教会
管轄司祭ステファン内田圭一

司祭) (黙誦: 天の王、慰むる者よ、眞實の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者

よ、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主よ、來りて我等の中に居り、我等を

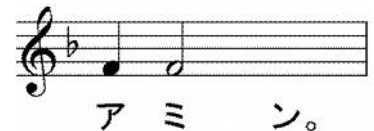
もろもろ けがれ いさぎよ しぜんしゃ われら たましい すく たま い たか
諸の穢より潔くせよ、至善者よ、我等の靈を救い給え。至と高きに

は光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、至と高きには光榮神に

歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、主よ、我が唇を啓けよ、然せば我

が口は爾の讚美を揚げんとす、)

司祭) 父と子と聖神の國は崇め讃めらる、今も何時も世々に、



【 大聯禱 】

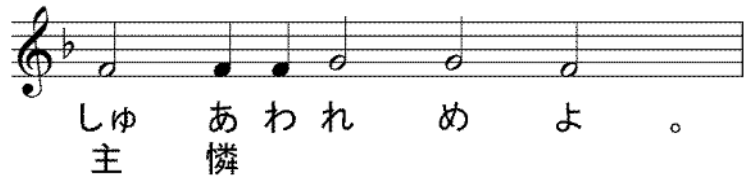
司祭) 我等安和にして主に禱らん、



司祭) 上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



司祭) 全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



司祭) 此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、

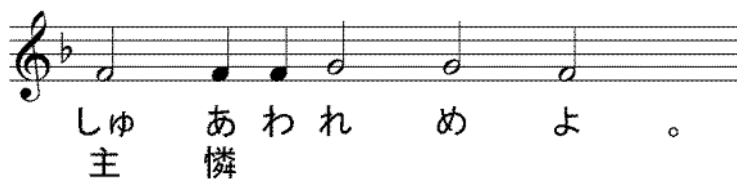


司祭) 教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教ダニイル、尊貴なる我等の仙台の

だいしゅきょう しさい そんぴん よ ほさいしよく ことごと きょうしゅう およ
 大 主 教 セラフィム、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び
 しゅうじん ため しゅ いの
 衆人の爲に主に禱らん、



わがくに てんのう およ くに つかさど もの ため しゅ いの
 司祭) 我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



こ まち およそ まち ちほう ため およ しん もつ こ うち お もの ため しゅ いの
 司祭) 此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



きこうじゅんわ ごこくほうじょう てんかたいへい ため しゅ いの
 司祭) 氣候順和、五穀豊穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



こうかい もの りょこう もの やまい うれ もの かんなん あ もの とりこ もの およ
 司祭) 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び
 かれら すくい ため しゅ いの
 彼等の救の爲に主に禱らん、



われらもろもろ うれい いかり あやうき まぬが ため しゅ いの
 司祭) 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



かみ なんぢ おんちよう もつ われら たす すく あわれ まも
 司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

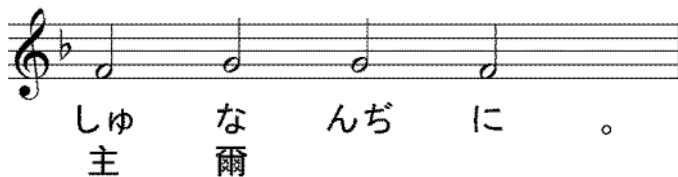


しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) ^{しせいしけつ}至聖至潔にして ^{いた}至りて ^{さんび}讚美たる ^{われら}我等の ^{こうえい}光榮の ^{ぢよさい}女宰、 ^{しょうしんぢよ}生神女、 ^{えいていどうぢよ}永貞童女マリヤと、

^{しよせいじん}諸聖人を ^{きおく}記憶して、 ^{われらおのれ}我等己の ^{みおよ}身及び ^{たがい}互に ^{おのおの}各の ^み身を以て、 ^{もつ}並に ^{ならび}悉くの ^{ことごと}我等の

^{いのち}生命を以て、 ^{かみ}ハリストス神に ^{いたく}委託せん、



しゅ な んぢ に 。
主 爾

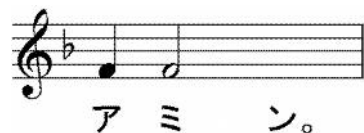
司祭) (黙誦: ^{しゅわ}主我が ^{かみ}神よ、 ^{なんぢ}爾の ^{けんべい}權柄は ^{かたど}像り ^{がた}難く、 ^{こうえい}光榮は ^{はか}測り ^{がた}難し、 ^{なんぢ}爾の ^{じんじ}仁慈は ^{かぎ}限り

^な無く、 ^{じんあい}仁愛は ^い言い ^{がた}難し、 ^{もと}求む ^{しゅさい}主宰よ、 ^{なんぢ}爾の ^{じれん}慈憐に ^よ因りて、 ^{みつか}親ら ^{われら}我等と ^こ此の

^{せいどう}聖堂とを ^{かえり}眷み、 ^{われらおよ}我等及び ^{われら}我等と ^{とも}偕に ^{いの}禱る ^{もの}者に ^{なんぢ}爾の ^{ゆたか}豊なる ^{おんたく}恩澤と ^{なんぢ}爾の

^{あいれん}愛憐とを ^{ほどこ}施し ^{たま}給え、)

司祭) ^{けだし}蓋、 ^{およ}凡そ ^{こうえい}光榮 ^{そんきふくはい}尊貴 ^{なんぢちち}伏拜は ^こ爾 ^{せいしん}父と子と ^き聖神に ^{いま}歸す、 ^{いつ}今も ^{よよ}何時も ^{よよ}世世に、



ア ミ ン。

【 第一アンティフォン 第102聖詠 】

わ が た ま し い よ 、 しゅ を ほ め あ げ よ 、 しゅ よ な ん
我 靈 主 讚 揚 主 爾

ぢ は あ が め ほ め ら る 。 わ が た ま し い よ 、
崇 讚 我 靈

しゅ を ほ め あ げ よ 、 わ が ち ゅ う し ん よ 、 そ の せ い
主 讚 揚 我 中 心 其 聖

な る な を ほ め あ げ よ 。
名 讚 揚

わがたましいよ、しゅをほめあげよ、かれが
我 靈 主 讚 揚 彼

ことごとくのおんをわするるなかれ。
悉 恩 忘 勿

かれはなんぢがもろもろのふほうをゆる
彼 爾 諸 不 法 赦

し、なんぢがもろもろのやまいをいやす。
爾 諸 疾 療

こおえいはちちとこいとせいしんにきす。
光 榮 父 子 聖 神 歸

いまあもおいつもよよに、アミン。
今 何 時 世 世

わがたましいよ、しゅをほめあげよ、わがちゆ
我 靈 主 讚 揚 我 中

うしんよ、そのせいなるなをほめあげよ、
心 其 聖 名 讚 揚

しゅよ、なんぢはあがめほめらる。
主 爾 崇 讚

【 小聯禱 】

われらまたまたあんわ しゅ いの
司祭) 我等復又安和にして主に禱らん、

しゅあわれめよ。
主 憐

かみ なんぢ おんちよう もつ われら たす すく あわれ まも
司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

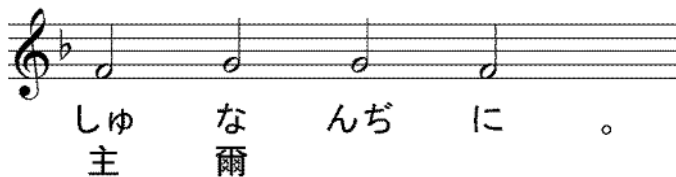


しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) ^{しせいしけつ}至聖至潔にして ^{いた}至りて ^{さんび}讚美たる ^{われら}我等の ^{こうえい}光榮の ^{ぢよさい}女宰、 ^{しょうしんぢよ}生神女、 ^{えいていどうぢよ}永貞童女マリヤと、

^{しよせいじん}諸聖人 ^{きおく}を記憶して、 ^{われらおのれ}我等己の ^{みおよ}身及び ^{たがい}互に ^{おのおの}各の ^み身を以て、 ^{もつ}並に ^{ならび}ことごと ^{われら}悉くの我等の

^{いのち}生命を以て、 ^{かみ}ハリストス神に ^{いたく}委託せん、



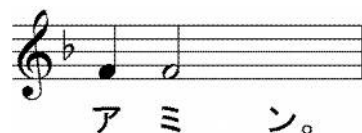
しゅ な んぢ に 。
主 爾

司祭) (黙誦: ^{しゅわ}主我が ^{かみ}神よ、 ^{なんぢ}爾の ^{たみ}民を ^{すく}救い、 ^{およ}及び ^{なんぢ}爾の ^{しぎょう}嗣業に ^{ふく}福を ^{くだ}降し、 ^{なんぢ}爾が ^{きょうかい}教會の

^{じゅうまん}充満を守り、 ^{なんぢ}爾が ^{どう}堂の ^び美なるを ^{あい}愛する ^{もの}者を ^{せい}聖にせよ、 ^{なんぢ}爾が ^{しんせい}神聖の ^{ちから}力を

^{もつ}以て ^{かれら}彼等を ^{こうえい}光榮し、 ^{われらなんぢ}我等 ^{たの}爾を ^{もの}恃む ^{のこ}者を ^{なか}遺す勿れ、)

司祭) ^{けだしけんべい}蓋 ^{およ}權柄及び ^{くに}國と ^{けんのう}權能と ^{こうえい}光榮は ^{なんぢちち}爾父と ^こ子と ^{せいしん}聖神に ^き歸す、 ^{いま}今も ^{いつ}何時も ^{よよ}世世に、



ア ミ ン。

【 第二アンティフォン 第145聖詠 】



わ が た ま し い よ しゅ を ほ め あ げ よ 、 わ れ い け
我 靈 主 讚 揚 我 生



る う ち しゅ を ほ め あ げ ん 。 わ れ ぞ ん め い の う ち
中 主 讚 揚 我 存 命 中



わ が か み に う た わ ん 。
我 神 歌



ぼ く は く を た の む な か れ 、 す く う
僕 伯 恃 母 救



 あたわざるひとのこをたのむなかれ。

 能 人 子 侍 母

 しゅ は た び び と を ま も り 、 み な し ご と

 主 羈 人 護 孤 子

 や も め と を た す け 、 た だ ふ け ん し ゃ の み ち を

 寡 婦 佑 惟 不 虔 者 途

 く つ が え す 。

 覆

 しゅ は え い え ん に お う と な ら ん 。 シ オ ン よ な ん ぢ

 主 永 遠 王 爾

 の か み は よ よ に お う と な ら ん 。

 神 世 世 王

【 神の獨生の子 】



 こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い ま も

 光 榮 父 子 聖 神 歸 今

 い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。

 何 時 世 世

 か み の ど く せ い の こ な ら び に こ と ば よ 、

 神 獨 生 子 並 言

 し せ ざ る も の に し て わ れ ら を す く わ ん が た め

 死 者 我 等 救 爲

あまんじて せいなるしょうしんぢよ・えいてい どうぢよ
甘 聖 生 神女 永 貞 童 女

マリヤよりみをと かり、かみのせいをかえ
身 取 神 性 易

ずしてひととなりじゅうじかにくぎうたれ、
人 十 字 架 釘

しをもってしをふみやぶりしハリストスかみよ、
死 以 死 踏 破 神

せいさんしゃのいつとしてちちとせいしんとと
聖 三者 一 父 聖 神 共

もにさんえいせらるるのしゅよ、われらをす
讚 榮 主 我 等 救

くいたまあえ。
給

【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ ^{しゅ いの} 我等復又安和にして主に禱らん、

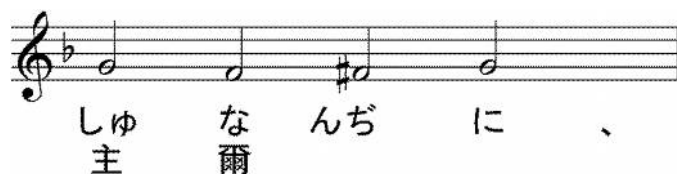
しゅあわれめよ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐

司祭) ^{かみ なんぢ おんちよう もつ われら たす すく あわれ まも} 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

^{しせいしけつ いた さんび われら こうえい ちよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ}
至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

^{しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら}
諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

^{いのち もつ かみ いたく}
生命を以て、ハリストス神に委託せん、



しゅ な んぢ に、
主 爾

司祭) (黙誦：我^{われら}等^こに此^{こう}の公^{どう}同^わ和^ご合^うの祈^き禱^{とう}を賜^{たま}い、曾^{かつ}て二^に三^{さん}人^に爾^{なんぢ}の名^なに依^よりて集^{あつ}まる者^{もの}に

も其^{その}求^{もと}むる所^{ところ}を賜^{たま}うを約^{やく}せし主^{しゅ}よ、爾^{なんぢ}親^{みづか}ら今^{いま}も爾^{なんぢ}が諸^{しょ}僕^{ぼく}の願^{ねが}いを其^{その}

利^り益^{えき}の爲^{ため}に應^{かな}わしめて、我^{われら}等^{こん}に今^{せい}世^{には}は爾^{なんぢ}の眞^{しん}理^りを識^しり、來^{らい}世^{には}は永^{えい}遠^{えん}の生^{いのち}命^を

を^え得^{たま}るを給^ええ、)

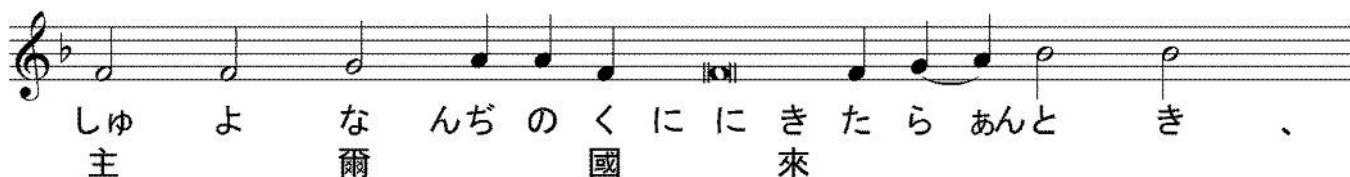
司祭) 蓋^{けだ}し爾^{なんぢ}は善^{ぜん}にして人^{ひと}を愛^{あい}する神^{かみ}なり、我^{われら}等^{こう}光^{えい}榮^{なんぢ}を爾^{なんぢ}父^{ちち}と子^こと聖^{せい}神^{しん}に献^{けん}ず、今^{いま}も

いつ ^よよ
何時^{いつ}も世^よ世^よに、



ア ミ ン、ア ミ ン。

【 第三アンティフォン 眞福九端 】



しゅ よ な んぢ の く に に き た ら あ ん と き、
主 爾 國 來



わ れ ら を お も い た ま え 。 こ こ ろ の ま 貧
我 等 記 憶 給 心(神・しん) 貧



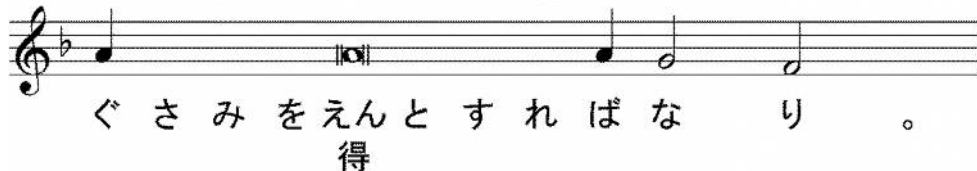
づ し き も の は さ い わ い な り 、 て ん ご く は か 彼
者 福 天 國 彼



れ ら の も の な れ ば な り 。
等 有

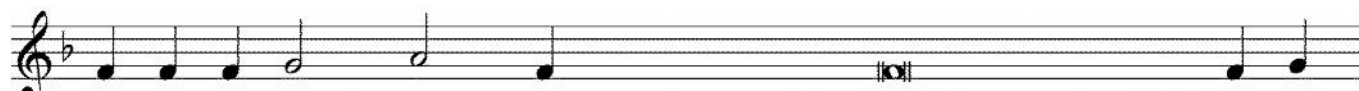


な く も の は さ い わ い な り 、 か れ ら な 慰
泣 者 福 彼 等 慰

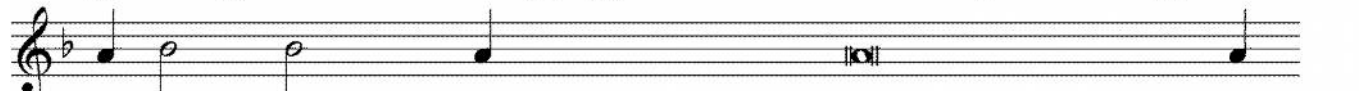


ぐ さ み を え ん と す れ ば な り 。
得

おんちゆうなるものはさいわいなり、か
 温 柔 者 福 彼
 れらちをつがんとすればなり。
 等 地 嗣
 ぎい に うえかわくものはさいわいな
 義 飢 渴 者 福
 り、かれらあくをえんとすればなり。
 彼 等 飽 得
 あわれみあるものはさいわいなり、
 矜 恤 者 福
 かれらあわれみをえんとすればなり。
 彼 等 矜 恤 得
 こころのきよきものはさいわいなり、
 心 清 者 福
 かれらかみをみんとすればなり。
 彼 等 神 見
 わへいをおこのうものはさいわいな
 和 平 行 者 福
 り、かれらかみのことなづけられんとすれば
 彼 等 神 子 名
 なり。



ぎのた めに きんちくせらるるものはさいわ
義 爲 奢 逐 者 福



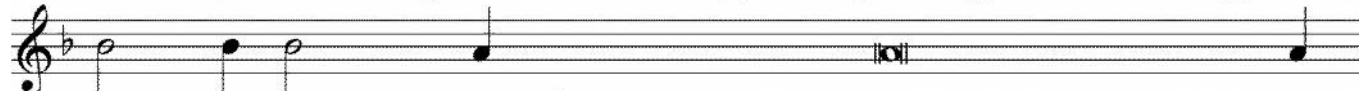
いな り、てんごくはかれらのものなれば
天 國 彼 等 有



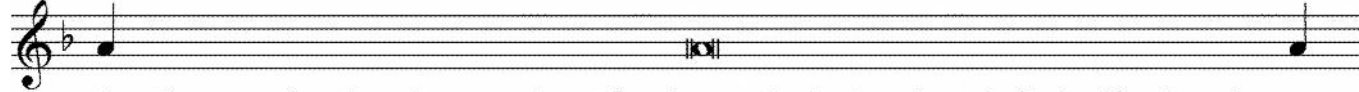
な り。




ひとわれのた めに なんぢらをのしりきいん
人 我 爲 爾 等 詬 奢



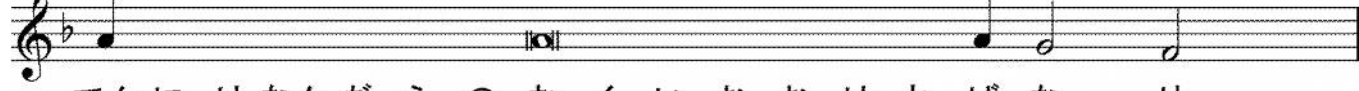
ちくし、なんぢらのこ とをいつわりてもろ
逐 爾 等 事 譎 諸



もろのあしきこ とばをいわんときはなんぢらさい
惡 言 言 時 爾 等 福



わいな り、よろこび たのし めよ、
喜 樂



てんにはなんぢらのむくいおおければなり。
天 爾 等 賞 多

司祭) (黙誦: ^{しゅさい}主 ^{しゅ}宰・^{われら}主・我等の^{かみ}神、^{しよてん}諸天に^{てんしおよ}天使及び、^{てんししゅ}天使首の^{ひんきゅう}品級と^{ぐんたい}軍隊とを^た立て

^{なんぢ}て爾が^{こうえい}光榮の^{ほうじしゃ}奉事者と^{もの}なしし者よ、^{もと}求む我等の^い入るに^{ともな}伴いて、^か彼の^{われら}我等と

^{とも}偕に^{つと}務め、^{とも}共に爾の^{しぜん}至善を^{さんえい}讚榮する^{せいてん}聖天使等の^い入るを^{いた}致させ^{たま}給え、^{けだし}蓋、^{およ}凡

^{こうえい}そ光榮^{そんきふくはい}尊貴伏^{なんぢちち}拝は爾父と^こ子と^{せいしん}聖神に^き歸す、^{いま}今も^{いつ}何時も^{よよ}世世に、)

司祭) ^{えいち}睿智、^{つつし}肅^たみて立て、

きたれ、ハリストスのまえにふしおが
來 前 伏 拜

ま あ ん。か み の こ し よ り ふ く か つ せ
神 子 死 復 活

し し ゆ よ 、 な ん ぢ に ア リ ル イ ヤ を た て ま つ
主 爾 奉

る も の お を す く い た ま え 。
者 救 給